

2012年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

川口市立十二月田中学校

『ライフスキルを通した健康教育の推進』

1. 実施内容

未成年の飲酒防止に関する取組

(1) 本校における飲酒に関するアンケートの実施

全校生徒を対象に15項目を質問し、学年男女別に集計した。

<アンケート結果より>

未成年のお酒の害についての理解が乏しい。
お酒についての正しい判断ができない。
お酒を勧められたときの断り方を練習したほうが
よい。



薬物乱用防止に関するポスター

(2) 薬物乱用防止に関するポスターの作成

美術部が作成した薬物乱用防止に関するポスターを校内に掲示した。



薬物乱用防止に関する標語

(3) 薬物乱用防止に関する標語コンクールの実施

全校生徒を対象に薬物乱用防止に関する標語を作成し
優秀作品を校内に掲示した。

掲示の際、書道部に標語の作成を依頼した。

(4) 未成年の飲酒における健康への影響についての学習

1学年の未成年飲酒予防に関する保健指導において「未成年飲酒の健康への影響」と題して、養護教諭から未成年の飲酒における心と体の健康への影響について学んだ。

(5) ライフスキルを活用した授業の実践

川口市教育委員会委嘱研究発表会「ライフスキルの指導を基盤とした健康教育の推進～家庭・地域社会との連携を通して～」にて、3種類の未成年の飲酒防止に関する授業を実施した。

1学年 「メディアの影響」 広告分析

1学年 「自分の気持ちをうまく伝える」 ロールプレイ

3学年 「危険行動を避ける」 意見交流・情報交換

(6) 地域保護者への働きかけとして未成年の飲酒防止に関する講演会を実施

2 学期 期末保護者会の全体会にて未成年飲酒
防止に関する講演会を実施した。

テーマ「未成年の飲酒と心」

講師 並木茂夫氏

(公益財団法人日本学校保健会事務局長 元本校校長)

「意外にも、子どもに飲酒を勧めるのは正月等の祝いの席での大人達だった。」生徒達にとって飲酒の機会が増える冬休み直前に、未成年飲酒の依存性の高さや、自尊心との関係等、子どもを守る親として、是非知っておきたいことを専門的にお話ししていただいた。

(7) 保護者を学校の活動に巻き込むための企画

よりよく生きるため、自尊心を高めるため、保護者と教職員が共に学ぶライフスキル学習会を実施した。

ライフスキル学習会(2回)を実施・・・1月24日・2月1日実施

2 . 必要性

喫煙、飲酒、薬物乱用など思春期のさまざまな危険行動の背景には共通して自尊心(セルフエスティーム《S E》・自己価値観・自己有能感)形成などのライフスキルにかかわる問題が存在しており、その形成なくして本質的な解決には至らないと考えられる。

現在の子どもにライフスキルを育てるためには、意図的、計画的な取組をしなければならず、その点において思春期の子どもたちが集まる場である学校への期待が大きくなる。学校は、生徒・教師・保護者同士が、お互いを大切にする人間関係を築きながら、子どもたちに好ましい影響を与えていくS E形成のための系統的な指導を行う必要がある。そのために本校ではライフスキルを基盤とした健康教育の研究の充実と発展が重要である。

3 . 目的

(1) 飲酒についての知識は学習しているものの、その理解度、認知度には個人差が大きい。概ね理解している生徒でも、実際の場面で望ましい行動選択ができないのが中学生の特徴である。正しい知識や行動を選択するために必要なスキルを学び、繰りかえし練習することで、自分の健康を保持するための望ましい行動選択ができる能力を養う。

(2) 飲酒防止教育に関しては、家庭が担っている部分が大きい。学校だけで教育を施しても、家庭や地域が正しい認識を持っていないとなかなか共通理解が図れず、本当に望ましい方向に生徒を支援することは困難である。保護者や地域を学校の活動に巻き込み、ともに理解を深めていく必要がある。

4. 成果と課題

過去のアンケート結果や生徒の実態から鑑みて、生徒は、未成年の飲酒の害について一度学んだだけでは知識の定着はしていない。何度も学習を繰り返し、理解を深めていく必要性があることが明らかとなった。また、知識として定着しても、行動が変容するかどうかは、生徒自身のセルフエスティーム・自尊心の在り方（家族との関わり方）に大きく関わってくることも自明である。

生徒はもちろん、保護者に対しても、未成年飲酒防止についての学習を継続的に実施する必要性を感じた。そして今年度も研究を継続実施したことで、今後の研究の方向性について教職員と検討することができた。

（成果）

（1）飲酒の害について学習を継続的に実施することで知識の定着が図られた。そして、その知識を土台としたライフスキル教育の学習を系統的に展開することができた。

例えば、特別活動の時間や総合的な学習の時間に、ライフスキル学習を活用し、「お酒の誘いを断る」ロールプレイングの演習や「お酒を勧められた時の断り方」の情報交換、「飲酒に関する広告分析」などの授業を行い、知識を正しい行動選択に結びつけることの重要性を学ぶことができた。

（2）未成年飲酒防止の地域への働きかけの一つとして、全校保護者を対象に講演会を実施した。参加された保護者からは好評をいただくことができた。今後、より多くの保護者に参加していただけるよう、日程等の検討が必要である。

（3）本校の未成年飲酒防止に関する教育の方向性を導き出すことができた。

（課題）

今後の課題としては、学校や生徒の状況、及び課題に応じて、指導内容を毎年、検討・改善していくことが挙げられる。生徒の実態をアンケート結果等からしっかりと把握したうえで、教職員と指導計画を修正し研究を深めていきたい。